

第2回静岡市中央新幹線建設事業影響評価協議会概要

1 日 時 平成27年9月25日(金) 10時30分～12時00分

2 場 所 静岡市役所 静岡庁舎 本館3階 第3委員会室

3 出席者 ※敬称略

【委員】岩堀恵祐（宮城大学理事・食産業学部教授）

土屋智（静岡大学農学部教授）

増澤武弘（静岡大学理学部特任教授）

安田進（東京電機大学理工学部教授）

【事業者】東海旅客鉄道㈱ 中央新幹線推進本部中央新幹線建設部

柴田洋三（環境保全統括部担当部長）

船田智巳（環境保全事務所長（静岡））

田中雅裕（中央新幹線静岡工事事務所長）

大橋徹也（中央新幹線静岡工事事務所副長）

穴戸直哉（中央新幹線静岡工事事務所主任）

宮川英之（中央新幹線静岡工事事務所主席）

【静岡県】市川加代子（くらし・環境部環境局生活環境課長）

堀田暁範（くらし・環境部環境局生活環境課班長）

古橋裕（くらし・環境部環境局生活環境課主任）

赤堀一彦（交通基盤部政策監付主査）

【オブザーバー】特殊東海製紙㈱

鈴木康平（産業素材事業グループ社有地活用チームリーダー）

【静岡市】環境局：小林環境局長、秋山環境局次長、清参与兼課長、

田嶋担当課長兼課長補佐、大村係長、大村副主幹、森竹主任主事

企画局：赤堀企画局次長、藪崎担当課長兼参事、大城係長

経済局：青島理事、高木課長、高田参事兼課長補佐

都市局：栗原課長、杉本主幹兼係長、吉永主査

建設局：宮原課長、塚田参事兼係長

【事業者説明】

- ・ 中央新幹線建設事業における発生土置き場の計画について

【意見交換】

○土屋委員

- ・ スライドP10の工事用道路（トンネル）の発生土量59万m³は、扇沢へ抜ける工事用トンネルのことか、ツバクロに抜ける工事用トンネルのことか。

○事業者

- ・ これは環境影響評価書記載の数値なので、扇沢へ抜ける工事用トンネルの想定発生土量である。

○土屋委員

- ・ 西俣～ツバクロへの工事用トンネルの想定発生土量はどのくらいか。

○事業者

- ・ 扇沢への工事用トンネルに比べれば、ツバクロの工事用トンネルの方が発生土量は減るとは思うが、断面の検討がまだなので現時点で詳細については示すことができない。
- ・ 扇沢とツバクロではトンネルの長さはおおよそ半分になるが、発生土量も半分になるとは言い難い。

○増澤会長

- ・ 新たな工事用トンネルはベルトコンベアのみを通すのか。

○事業者

- ・ 発生土の運搬計画についてはこれから詰めていく。
- ・ 環境影響評価書時点では、扇沢にベルトコンベアで運搬する計画であった。
- ・ 西俣の非常口から千石まではベルトコンベアで発生土を運搬し、そこから南にはダンプトラックで運搬するという場合の想定CO₂発生量がスライドに記載してある。
- ・ ただし、これはまだ決定ではなく、扇沢を回避するとも言っていないので、今後発生土置場を決める段階で運搬方法についても検討していく。

○増澤会長

- ・ 扇沢回避は決定したわけではないとのことだが、方向としては扇沢回避の方向に向かっていると考えてよいのか。

○事業者

- ・ ツバクロ沢に 360 万 m³ 発生土が置ける想定であること、また市長意見、知事意見では扇沢回避を含めた検討をすべきとの指摘があったこと、これらを踏まえた結果まずはツバクロ沢を重点的に検討していく。
- ・ 今回はその検討結果について、お示しした。
- ・ 今回示した内容について皆様に意見を頂戴し検討を深めていき、その結果ツバクロより南の発生土置場に置けるということになれば、必然的に扇沢は回避でき、市長意見知事意見に叶った計画となると考えている。

○増澤会長

- ・ 扇沢は回避の方向と考えてよいのか。

○事業者

- ・ 仮にその場合には 360 万 m³ の発生土の置場を扇沢以外の 6 か所で計画することになる。
- ・ 委員の皆様にもそのようにまとめてもらえれば、扇沢回避の方向で検討する。

○岩堀委員

- ・ 発生土について、扇沢を回避した場合はほかの発生土置場にどのように分配されるのか、それを示してほしい。

○事業者

- ・ 容量の大きいツバクロについてまず置き方を整理し具体化していき、それから他の置場にどれだけ置くかというような検討をしていく手順になる。

○岩堀委員

- ・ 容量の大きい扇沢の回避は環境に大きな影響を与えるため、各置場の具体的な発生土想定量を示してもらった方がこちらは判断しやすい。

○事業者

- ・ ツバクロに置く事を了解いただければ、その他の発生土置場の検討をしていくことになる。

○安田委員

- ・ スライドP30の異常時対応について、巡回点検とあるが土石流や山崩れが起こった際には間に合わないのではないか。
- ・ 豪雨の時や地震の時に起こる災害について、おおまかなシミュレーションを作成し、その対策を検討すべきである。
- ・ 地滑り等災害の発生には、巡回点検では対応が間に合わないので、地滑り計等自動計測できるような機器の設置が必要になってくるだろうし、災害時に起こり得ることのイメージを示してもらえば我々も安全対策について理解がしやすい。

○事業者

- ・ 現時点では具体的なものは申し上げられないので、頂いたご意見を参考に今後検討していく。

○安田委員

- ・ 土砂が溜まり、できた土砂ダムが決壊した場合は大災害になりかねないので、過去の事例を参考に検討するとよい。
- ・ 耐震設計について、地震動レベル1レベル2に分け、それぞれのレベルの時にどういったことが起こるのか、検証をしていただきたい。
- ・ 直下に数メートル規模の活断層はないか。
- ・ 盛土の地質によっては経年劣化していき崩壊してしまうものもあるため、その点は注意してほしい。

○事業者

- ・ 耐震設計についてはまだ決まっていないが、ご意見を参考にしながら検討していく。
- ・ 活断層については文献調査をしたところ、この辺りにはない。
- ・ 盛土の経年劣化についてはまだ検討はしていないが、今後詳細な設計を考える段階でご意見を参考にさせていただく。

○増澤会長

- ・ 発生土はほとんどが砂岩か泥岩ということになるのか。

○安田委員

- ・ 砂岩は風化ではあまり弱くならないが、泥岩は風化していく。

○岩堀委員

- ・ 多くの濁水がでることが予想されるが、沈砂池は環境影響を考えると小さい方がよい。
- ・ ただ沈砂池が小さいと大きな洪水の際にはカバーしきれず、砂を巻き上げた濁水がそのまま流れてしまう。
- ・ 沈砂池の大きさは重要であるため、沈砂池から流れる濁水の濁度等、環境設計を設けて基準値を定める等、そのような具体的な検討を行っていただきたい。
- ・ 沈砂池はかなり大きくないと洪水は防げないし、大きいと景観を損ねてしまうので、その辺りの設計をしっかりと考えてほしい。

○増澤会長

- ・ 柳島の宿舎からの多くの生活排水は柳島で充分処理しきれぬのか。

○事業者

- ・ 柳島からの想定している水は、非常口からのトンネル湧水と生活排水である。
- ・ トンネル湧水はプラントを使って濁度を落とすうえで川へ排水する。
- ・ このプラントによる処理は工事中の突発湧水も想定している。
- ・ 生活排水については、浄化槽にて浄化処理する。
- ・ 現在検討しているのは、風呂などは水を循環させて使用するシステムで、そもそもの水の使用を減らすこと。
- ・ 一般的な排水処理よりレベルの高い高度処理の検討もしている。

○岩堀委員

- ・ 浄化槽や高度処理といっても様々な方法があるので、慎重に選ぶべきである。
- ・ 循環型の風呂はフィルター等でろ過した際に、そこに菌が濃縮してしまうことになる危険がある。
- ・ 個人的にはきれいにして排水した方がよいと思う。

○土屋委員

- ・ 大深度からくみ上げてくる湧水の施工中、またその後の水質保全について管理計画には示されていないので、配慮していただきたい。

○事業者

- ・ 砂防関係については専門家の方と打合せをして計画を決めていきたい。
- ・ 地下からでた土砂については、今回は具体的には書いていないが着工後にモニタリング、土砂の調査について報告していくことを記載していくつもりであるし、今後管理計画を具体化していく中でご意見があれば検討して必要なものを追加していく。

○増澤会長

- ・ 管理計画には造成終了後のことも記載するとのことだが、終了後とは終わった時点を目指すのかそれとも終了後更に期間を設けて管理をしていくことになるのか。

○事業者

- ・ 今具体的に終了後何年といったような想定はしていない。
- ・ 造成終了後、造成による影響が及ばなくなり一般的な管理の状態に移せるようになった時点までは、事業者あるいは別の者に引き継ぐかもしれないが、そこまでは管理していくつもりでいる。

○増澤会長

- ・ 項目によっても変わってくるだろうが、工事中はもちろん、工事後はどのくらいの期間管理していくのかを管理計画に記載していただきたい。
- ・ 扇沢を回避するとすれば、ツバクロに集中して発生土を置くか、その他の発生土置場に分散して置くかだが、ツバクロに集中して置くということに対してどのような検討をしたのか。

○事業者

- ・ 具体的に一か所に置くという計画の検討はしていない。
- ・ 扇沢は回避すべきとの要望、ツバクロは土砂流出の関係や景観について懸念があるという今の状況では、まずは重点的にツバクロを検討し、ツバクロに置くことへの理解をいただいた上で他の発生土置場にどれだけ置くのかについて検討していく。
- ・ 発生土の分散と集約がどちらがよいかは一概には言えないため、ツバクロに置けそうであると分かった時点で、他の発生土置場の分配について検討し、集約か分散かはまたご相談させて頂きたい。

○増澤会長

- ・ 一か所集約にはリスクがあると思う。
- ・ 50mの盛土で自然林を埋めてしまうこと、大きな災害の際の崩壊の危険性など。
- ・ またリスクを分散した際に、最大量の発生土を置く場所であっても盛りすぎないといったことも当然考えていかなければならない。

○事業者

- ・ その点も考えて計画していきたい。

○土屋委員

- ・ 工事着手はいつになるのか。

○事業者

- ・ 現時点でいつになるかは分からない。
- ・ 環境に関すること、安全性に関することは今年度中には目処をつけたい。
- ・ 導水路トンネルの水資源の関係、発生土置場のツバクロの関係について検討を深めたものが年度いっぱいである程度示すことができると思う。
- ・ これ以外にも、盛土は森林法や林道の改修等行政との調整が必要となる。
- ・ また、地権者その他関係者との諸協議の目処がたてば、というところなので、いつ着工かはまだ答えられない。

○増澤会長

- ・ 今回は少なくとも事業者から扇沢に関する意思決定が示された。
- ・ それに伴い、新たな工事用トンネルの可能性も示された。
- ・ この市長意見又は知事意見を踏まえた管理計画の作成は、懸念払拭に向けて一歩前進したものと私は理解している。
- ・ 今後管理計画に関してきちんと検討し、我々には報告をしてほしい。

——連絡事項——

○事務局

- ・ 次回開催については未定だが、整ったところで連絡する。

以上